

平成27年2月9日

No.128

〔仕事〕

日経トップリーダー2月号「組織とは、個としての人間一人ひとりに、おまび社会的存在としての人間一人ひとりに貢献も行わせ、自己実現させるための手段である」(「マネジメント」(下)P202)

ドラッカーは、組織は社会的な手段、つまり道具であると位置付けた。道具であるから必ず目的がある。第一に社会において所有の使命を果たすことである。第二に組織に属する一人ひとりの自己実現を助け、成長させることである。人は、組織の使命を果たすために役割を与えられ、仕事を通して成長する。スキルや知識を身に付けるだけではない。人として大きくなる。仕事は人格を形成する。人に成長の機会を与えることに真剣に取り組む経営者が人材に悩まされることはない。(佐藤孝=ドラッカー学会理事)

停年65歳までの人生のうち睡眠を除き多くの時間を仕事か占めています。自らが充実した人生を過ごすには、仕事を通して、学び、人間関係を築き、成長させることが必要であります。そして、仕事をやらせられるのではなく、自分で考え、行動しなければなりません。どうしたら、幸せになれるか、お客様に喜ばれるか、使命は、夢は、目標は、多くのお客様から喜ばれ、信頼されるか、働きがい、働きやすさ、自分で考え行動すること、充実した人生となり、家族、職場、社会がよくなります。物心両面が幸せになります。仕事が多ければ多いほど、相談、頼れ事が多ければ多いほど多くの事を経験でき、学びます。仕事は、自分が毎日やっていることで、やればやる程強くなり、得意になっていきます。仕事を進んでやることで自己成長、頼れ事は試され、君の成長を回りが望んでいます。仕事は、幸せになるための自己実現を目指す場です。自ら仕事をつくりましょう。

高林幸裕